

3 活動内容

昨年 動画制作において企画書を書く。その時、インターネット・SNSといった情報リテラシーに関する企画書が多かった。

7月 インターネットに関する動画制作ができないかと、公募案内を探していたところ、

中旬 『インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2018』の存在を知り、放送部内で企画書を制作する。

7月 企画書のプレゼンテーションを行い、投票で6つに絞り、希望する企画に分かれて制作に入る。

末

8月 制作開始。各班ごとにシナリオを練り、小道具制作・生徒にアンケートをとる・インターネットで調べなどの活動をする。出来次第、撮影もしていく。

8月 編集開始

末

9月 完成

4 アピールポイント

- ・本活動を通して、インターネット上のトラブルについて学ぶことができた。
- ・放送部なので、インターネットはよく利用する。完成した動画を通して、どのようにインターネットとつきあっていけばいいか改めて部員全員で確認できた。
- ・また、著作権についても、著作権フリーの音源を使うことの必要性などを再確認できた。

活動事例

(団体名：神戸市立有野北中学校)

1 スマホの使い方ルール宣言

『ネット・SNS利用の有北ルール』

2 活動の趣旨・目的

情報化社会を生きていくうえで、携帯・スマホ・タブレット・PC・SNSなどの使用は必須である。

まず、その使用にあたり「メリット」「デメリット」を生徒たちで話し合い、そのうえで、現在の正しい使い方を考えていく。

また、地域にも広げていくことにより社会全体の使用について考えていくことができる。

ゆくゆくは、将来的なことをふまえて、中学生だけでなく小学生にも広げ正しい使い方を地域で考えたい。

まず最初の段階で、2つのことを徹底していく。

- ・携帯、スマホについて有野北中学校生徒全員が考えること

- ・親、地域の人、小学校、保育園、幼稚園などにも考えてもらうこと

自分たちでルールを決めるにあたり、自浄力も高め、実際に効果的に実践できるものとした。

3 活動内容

- 4月 昨年までのルールの確認
- 5月 生徒のスマホなどの使用状況の把握
- 6月 今夏のリーダー研修でのネット・SNS利用の有北ルールの検討
- 7月 神戸市生徒会会議に出席し、神戸市内の中学校の状況把握
- 8月 リーダー研修でのグループ協議
- 9月 全校生へ神戸市の状況並びに本校でのルール宣言

4 アピールポイント

- ①言葉づかいに気をつける
(本当に送っていい内容か考えてから送信する)
- ②保護者とルールや時間を決めて使う
- ③フィルタリングを利用する
- ④知らない人やサイトと通信しない
- ⑤歩きスマホはしない
- ⑥課金しない

6項目のルールが生徒会を中心に決定した。

そのことにより生徒相互にチェックし合える。

1 「姫路市立飾磨中部中学校生徒会によるスマホの正しい使い方」

姫路市立飾磨中部中学校生徒会

2 活動の趣旨・目的

昨今、スマホ・ケイタイの所持率は増すばかりで、本校の3年生女子では90%を超える勢いである。そんな中、LINEなどでのトラブルが耐えず、依存症の疑いのある生徒もいるのが現状である。そこで、本校のネット端末でのトラブル等の課題解決に向けて、生徒会で何かできることはないかと動き出した。

3 活動内容

○6月15日（スマホ・ケイタイ安全教室、第1回ワークショップ）

- ・兵庫県立大学環境人間学部の大学生によるスマホ・ケイタイ安全教室。
全校生にスマホ・ケイタイの正しい使い方について講演をしていただいた。
- ・生徒会とのワークショップ。
生徒会として今後どのように活動を進めていけばよいか。また、スマホの問題点などを模造紙にまとめた。飾磨中部中学校の現状を把握するため、全校生に対してアンケートをとることに決定。



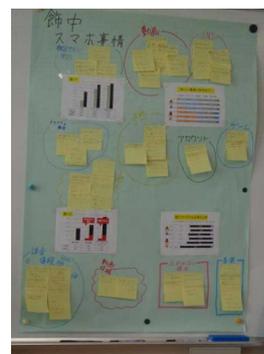
スマホ・ケイタイ安全教室 第1回ワークショップ

○7月中旬

- ・全校生に対して、ネット端末に関するアンケートを実施。
- ・アンケート結果を県立大生が分析。

○8月9日（第2回ワークショップ）

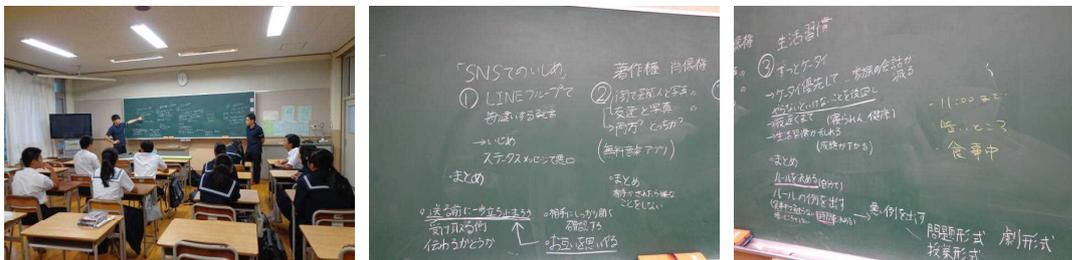
- ・アンケート結果より課題を把握。
- ・課題別に分析し、模造紙にまとめる。



○10月2日（第3回ワークショップ）

- ・第2回のワークショップで分析した結果をどのようにして啓発していくか考える。
- ・啓発方法結論

課題を3つにしぼり、3つのパターンで動画を撮影し、校区の小学校へ行き、児童相手に啓発活動を行う。



○10月24日（第4回ワークショップ）

- ・3班に分かれて動画の撮影開始。



○今後の予定

- ・撮影した動画を編集。
- ・完成した動画を用いて、校区の小学校へ行き、児童に啓発の出前授業を行う。

4 アピールポイント

本校では、保幼小中連携として、保育所、幼稚園から中学校まで一貫した生活目標の設定（み・そ・あ・じ・は）をし、毎月1回保幼小中で「あいさつ運動」を行っている。さらに今回その連携を活かして、生徒会が小学校の児童にスマホ等のネット端末の正しい使い方について啓発する。なぜならネット端末の問題は中学生にも必要だが、むしろ小学生の時期から啓発していく必要性を痛感するからである。

活 動 事 例

兵庫県立赤穂高等学校

1 タイトル

生徒が主体的に考えるスマホ・SNS の安全安心な活用

2 活動の趣旨・目的

- ・ スマホのアプリの利用状況を調査することで、日常の時間の使い方を再確認し、日々の生活をさらに有意義なものにするために自己を振り返る
- ・ SNS 上での誹謗中傷を減らし、対人コミュニケーションの大切さを再認識する
- ・ 校内でのルールを作成し、勉学や部活動など、学校生活に集中する

3 活動内容

- 4 月 全校生徒約 800 人に対してスマホの使用状況に関するアンケートを実施
- 5 月 生徒会新聞の特別号としてアンケート結果を掲載
PTA 総会にて保護者にも上記のアンケート結果を配布
- 6 月 平成 30 年度第 1 回ひょうごケータイ・スマホワークショップに参加
- 10 月 全校生徒約 800 人に対してパネルディスカッション(パネリスト:生徒会 4 名)
形式のスマホ講演会を開催 (講師:兵庫県立大学 竹内 和雄 准教授)



平成 30 年度第 2 回ひょうごケータイ・スマホワークショップに参加

- 11 月 校内スマホルールの提言(予定)
- 12 月 スマホサミット in ひょうご 2018 に参加(予定)
千種高校・上郡高校との共同プロジェクト実施(予定)
校内 SNS 啓発動画の作成(予定)

4 アピールポイント

- ・ 生徒が主体的にスマホ・SNS の安全安心な活用について取り組んでいる。
- ・ ルールも生徒が決めるため、守りやすく、実践しやすい
- ・ 生徒会新聞上でグラフにしたことで利用状況を視覚化でき、生徒のみならず保護者の方々も家庭でのスマホの使用を振り返ることができた
- ・ 講演会を設けたことで、学校全体での知識・情報の共有ができた
- ・ 他校との共同プロジェクトを実施することにより、広い視野で取組みを改善する。



情報モラル アンケート結果!

対面式の時に皆さんに答えてもらった情報モラルのアンケート結果を報告します。

Q1「利用している携帯電話は？」という問いに対して、スマホを使っている生徒が768人で全校生徒の98%を占めていました。

Q1.利用している携帯電話は?



Q2「1日あたりの携帯電話の使用時間は？」に答えた生徒の割合が多く、3時間以上使用している人が264人もいます。

Q2.携帯を1日どのくらい利用しているか



スマホの使用時間が1時間未満と答えた生徒の割合が少ないことから、スマホなしの生活が考えられなくなってしまうのではないかと、今後は、1時間未満と答える生徒の割合が少しでも増え、使用時間が減っていくように気を付けたいですね。

Q4「SNSでトラブルを経験したことがありますか?」という問いに対して97%の生徒が「ない」と答えていました。多くの人が「ない」と答えていて安心しました。

「ある」と答えた生徒が22人もいて驚きました。

Q4.SNSでトラブルが起きたことがあるか

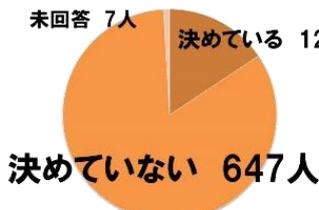


Q5.どのようなトラブルにあったか

・LINEのグループを自分だけ退会させられた	・詐欺にあった
・アカウントを乗取られた	・ツイッターに悪口を書かれた
・LINEのグループ内で悪口	・ケンカ

Q6「携帯利用のルールは決めているか」という問いに対しては、121人が決めている、647人が決めていない、7人が未回答です。

Q6.家で携帯利用のルールは決めているか



「決めていない」という生徒が647人もいてとても驚きました。一方で「時間を決めて」と答えてくれた生徒もいて安心しました。

Q7.どのような約束を決めているか

・個人情報やネット上に記入しない	・ながら利用はしない
・時間、場所を決めて使っている	・アプリを入れる時は親の許可がいる

Q3「よく使用するアプリはなんですか?」という問いには多くの種類の回答が得られました。その中でも「LINE」や「Twitter・Instagram・YouTube」などが多かったです。やはりSNSが多い傾向が見られ、これからはSNSの使用について見直していかなければならないと強く思いました。

順位	アイコン	アプリ名
1	LINE	LINE
2	YouTube	YouTube
3	Instagram	Instagram
4	Twitter	Twitter
5	ゲーム系	ゲーム系

今回のアンケートを通して、校内のスマホ使用状況を詳しく知ることができ、これからどのような活動をしていくべきかを改めて考え直すことが出来ました。

Q8.スマホを使わないための良いアイデアは?

・ギガ数を減らす(通信料を減らす)	・趣味をつくる(本を読む、絵を描く、運動する)
・ノーゲーム、ノースマホデーを作る	・近くにスマホを置かない
・未来手帳を使う(勉強した分だけスマホを使ってよい)	・親に預ける

アンケートへのご協力ありがとうございました。

総体に向けて...
校内では3年生最後の試合である総体に向けて運動部が活動しています。



1年生を迎えて新しい雰囲気です。再スタートしたと思います。

これまで築いてきた絆や残してきた成績、たくさん努力してきたことを忘れないでください! 部活動でしか経験することが出来ない貴重なものだと思います。仲間との残り少ない時間を大切に、今までの世話になった方への感謝の気持ちを忘れず、最後まで突っ走ってください。皆さんが納得の結果になることを願っています!!



文化祭に向けて...
今、現生徒会執行部では文化祭に向けて話し合いの日々が続いています。少しでも全校生徒が楽しめる文化祭にしたいという共通の目標を元に、頑張っています。皆さんも有志ステーションや生徒会企画に出て、一緒に文化祭を盛り上げましょう!



活 動 事 例

(団体名：兵庫県立千種高等学校)

1 タイトル

『国際交流を取り入れた情報モラル向上の取組 ～千種からアメリカへ～』

2 活動の趣旨・目的

- (1) 生徒主体の情報モラル向上の取組をアメリカの高校生に発信
平成 25 年度から続いている生徒会執行部が中心となって実施している情報モラル向上の取組を振り返り、交流をするアメリカの高校生に取組を伝え、今後の活動について考える。
- (2) アメリカの文化や歴史を参考にした情報モラル向上の取組
交流をするアメリカの高校生からアメリカの文化や歴史を学び理解を深めることで、これまでとは違った視点で情報モラル向上の取組を考え、実行する。
- (3) 「思いやり」の精神を取り入れた情報モラル向上の取組
交流をするアメリカの高校生と一緒に情報モラル向上の取組を考えることで、多角的に現状の課題を考え、「思いやり」の精神を取り入れた問題解決策を探る。

3 活動内容

【平成 29 年度】(主要なもののみ記載)

- (1) 6月 ユニセフ「世界子供白書 2017」のための子ども・若者ワークショップ参加
- (2) 11月 第1回「日米高校生ネット会議」にて本校の取組発表と日本文化紹介
- (3) 12月 「スマホサミット in ひょうご 2017」にてインターネット利用対策活動事例特別賞受賞
- (4) 12月 「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ in 近畿 2017」にて審査員特別賞受賞
- (5) 12月 兵庫県警察本部生活安全サイバー犯罪対策課 本田英理警部補 講演会
- (6) 12月 第2回「日米高校生ネット会議」にて日米共同の取組検討
- (7) 1月 第13回 IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2017 に活動事例部門にて文部科学大臣賞受賞
- (8) 2月 兵庫県教育委員会「ゆずりは賞」受賞
- (9) 3月 第3回「日米高校生ネット会議」にてネット利用に関する日米共同アンケート作成を決定
- (10) 3月 文部科学省にて「平成 29 年度ネット安全安心全国推進フォーラム」参加

【平成 30 年度】

- (1) 4月 第4回「日米高校生ネット会議」にて日米共同アンケート設問項目検討
- (2) 5月 ネット利用に関する「日米共同アンケート」実施(千種町内小学生・中学生・高校生対象)
- (3) 6月 アメリカ合衆国アリゾナ州チェンジメーカー高等学校から高校生来日
- (4) 6月 「日米スマホサミット in 千種」開催
(千種町内小学生・中学生・高校生・保護者代表・アメリカの高校生による熟議)
- (5) 6月 「New Education Expo 2018 大阪会場」にて取り組み発表
- (6) 6月 第1回「ひょうごケータイ・スマホワークショップ」参加
- (7) 7月 LINE 株式会社 高橋誠氏 情報モラル向上に関するワークショップ
- (8) 7月 本校代表生徒がアメリカ合衆国アリゾナ州チェンジメーカー高等学校を訪問
- (9) 9月 第14回 IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2018 に作品応募
- (10) 9月 「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ 2018」に作品応募
- (11) 9月 「高校生 ICT Conference 2018 in 大阪」参加・取組発表
- (12) 9月 第5回「日米高校生ネット会議」にて日米共同情報モラル啓発動画作成決定
- (13) 10月 第2回「ひょうごケータイ・スマホワークショップ」参加

- (14) 10月 親かな言葉を集める「思いやりBOX」設置
- (15) 10月 千種町生活実態調査（含情報機器等利用状況調査）
- (16) 10月 思いやりに関する「日米共同アンケート」実施（千種町内小学生・中学生・高校生対象）
- (17) 11月 千種町文化祭で高校生による「情報モラル啓発劇」発表予定
- (18) 11月 日米共同情報モラル啓発動画完成予定
- (19) 12月 第6回「日米高校生ネット会議」にてネットいじめ予防WEBページ、啓発動画発表予定
- (20) 12月 「スマホサミット in ひょうご2018」参加予定
- (21) 12月 千種川領流域にある県立高等学校4校（県立千種・県立佐用・県立上郡・県立赤穂）代表生徒による「千種川サミット」（仮称）開催予定
- (22) 1月 宍粟市職員研修会にて取組発表予定

3 アピールポイント

- (1) 国立大学法人大阪教育大学と一般社団法人ソーシャルメディア研究会の協力により、アメリカ合衆国アリゾナ州の高校生と情報モラル向上の取組やネットいじめ防止について一緒に考える機会を得た



日米高校生ネット会議



チェンジメーカー高等学校との交流



日米スマホサミット in 千種



アメリカでの高校生熱議



平成30年6月12日神戸新聞朝刊

アメリカの高校生が実際に来日し、本校を訪問したことで、文化交流や価値観の違いを共有することができ、一緒に情報モラル向上の取組を考えることができた。また、普段外国人と触れ合う機会がほとんどない子どもたちにとっては貴重な機会となり、視野を広げる経験となった。

- (2) 日米共同「ネットいじめ予防WEBページ」作成予定
日米の高校生が協力をして、ネットいじめ予防啓発動画や情報モラル向上の取組が掲載されたWEBページを12月に開設予定。
- (3) ルール重視から、「思いやりの気持ちを持った行動」に重点を置いた情報モラル向上の取組
ネット問題は心の問題。問題が発生しないためのルールは重要であり必要であるが、ルールに縛られるのではなく、思いやりを持った行動をとることで、問題が発生しないような行動目標を定め、目標を定着させる新たな取組を検討している。



「思いやりBOX」設置趣旨説明



各教室に設置された「思いやりBOX」

他者の思いやりある行動を投稿する「思いやりBOX」を設置。思いやりの精神を広げることで、ネットトラブルを減らし情報モラル向上を図る。

活動事例

(団体名 雲雀丘学園中学高等学校 放送部)

1. タイトル 動画作成によるネットモラル学習

2. 活動の趣旨・目的

- ・インターネットの問題点を、テレビ番組の動画を作成しながら生徒自ら考える。
- ・スマホの弊害（いじめ投稿・なりすまし問題など）を、生徒自らドラマ仕立てのストーリーでテレビ番組の動画に編集することで、問題点を考えさせるとともに、生徒自ら情報発信させる。
- ・作成したテレビ番組を、総務省近畿総合通信局主催「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ in 近畿」に、2017年・2018年と、2年連続応募しました。

3. 活動内容

- ・2017年7月 ストーリーを生徒（中1～中3）が話し合う

グループ名「チームスカイラーク」タイトル『SNS（その時 汝 察するべし）』

内容 数学の問題がわからない中学生が友人にSNSで質問したところ、馬鹿にする言動が多数寄せられてきた。そこで、友人がそれをいさめることで、SNSの投稿が止んだ。いさめる勇気が大切であることを伝える2分のショートムービー

- ・2017年8月 ドラマの収録・編集・応募

「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ in 近畿」

- ・2017年11月 結果発表 「チームスカイラーク」『SNS（その時 汝 察するべし）』
審査員特別賞受賞

総務省近畿総合通信局のHPhttp://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01001082.html)

に掲載。近畿総合通信局のHP (<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/sumaho-kinki/index.html>)

で動画は公開されています。

- ・2017年12月17日 「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ in 近畿2017」優秀作品発表会 開催（大阪 ユビキタス協創広場 CANVAS にて） 授賞式に出席するとともに、パネルディスカッションに参加。生徒が意見発表。
- ・2017年12月 雲雀丘学園中学高校 HP (https://www.hibari.jp/weblog30/cat8/cat22/index_4.html) に、結果発表

- ・2018年7月 ストーリーを生徒が話し合い、2グループが制作

・グループ名「HANABI」タイトル『ネットのネット』

内容 ちょっとしたケンカから始まった「いじめ投稿」が相手だけでなく自分や周りの人にも影響を及ぼし傷つけた。「もう、そのようなことになってほしくない」という思いで制作した3分のショートムービー。

・グループ名「hibari victory」タイトル『友達でしょ』

内容 インターネット上の「なりすまし」問題を考えてもらう3分のショートムービー

・2018年8月 ドラマの収録・編集・応募

4. アピールポイント

・実際にSNSを使っている子どもが自主的に制作した内容なので、わかりやすいし、問題点もわかりやすい。

・生徒はビデオカメラで撮影し、パソコンで編集することに長けているので、そんなに手間をかけずに制作することができる。

連絡先 板倉宏明（雲雀丘学園中学高校 放送部 顧問）

665-0805 兵庫県宝塚市雲雀丘4-2-1

TEL 072-759-1300 FAX 072-755-4610

MAIL itakura@hibari.ed.jp

平成 29 年度

加西市における小中学生のインターネット等の 使用の現状と今後の対策について



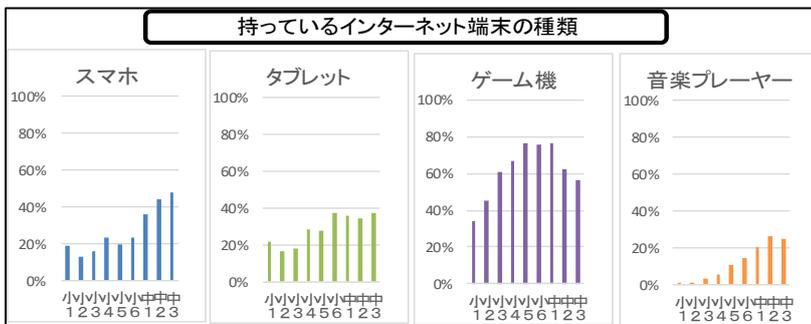
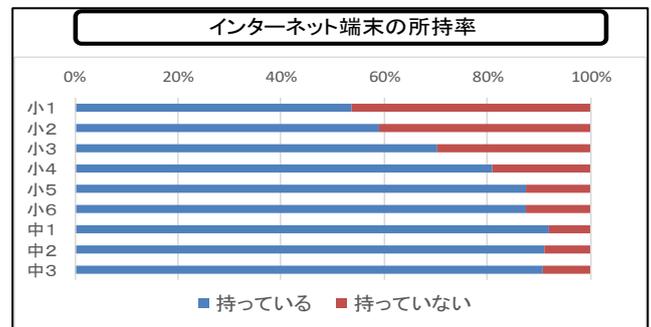
加西市立総合教育センター

スマートフォンやゲーム機などインターネットに接続可能な機器の普及に伴い、児童生徒がネットトラブルや犯罪に巻き込まれる危険性が増加しています。また、長時間利用によるインターネット依存やゲーム依存の問題も発生しています。

加西市教育委員会（加西市立総合教育センター）では、今年度も加西市内小中学生のインターネット等の使用状況を把握し、学校・保護者及び児童生徒自らが今後の対策を考えるための資料とするために、児童 1,963 名、生徒 1,074 名のアンケート調査（H29.11 月）を実施しました。

1 調査結果と分析について

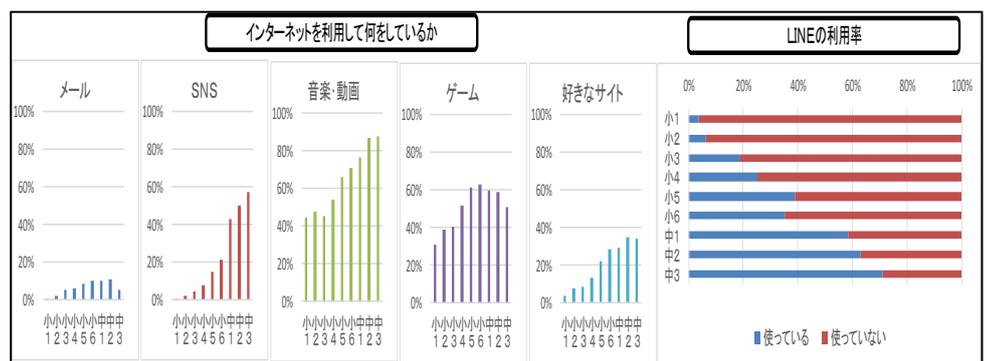
(1) 小学生の約 74%、中学生の約 91% が何らかのインターネットに接続可能な端末を所持しています。所持率は小学 3 年生から高くなり、中学生では 90% 以上になります。インターネットに接続できる環境にある子どもの率は年々高くなってきています。所持率の高いものとして、小学生はゲーム機、タブレット、スマホの順になっています。中学生は、ゲーム機、スマホ、タブレットに加え、音楽プレーヤーも増えてきます。タブレットの所持率は、小学校 6 年生から上がっています。容易にインターネットに接続できる環境にあることが伺えます。ゲーム機の所持率を見ると、小学 3 年生から中学 3 年生まで 50% を超えています。



現代の子どもたちは、生まれたときから便利な機器に囲まれて生活しています。そして、様々な機器からのインターネットの接続が可能な状況にあります。今やなくてはならない便利な機器ではありますが、使い方を間違えると、多くの危険性をはらんでいます。今後も最新の情報を学べるような親子そろっての学習会等が大切であると思います。

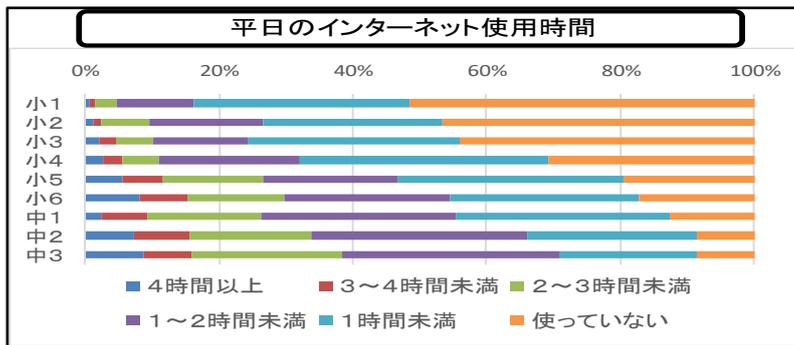
(2) 小中学生の多くはインターネットで、音楽を聴いたり動画を見たり、ゲームをしています。SNS の利用については、小学 3 年生から多くなり、中学生では 40% 以上の生徒が利用しているのは、昨年度と同様の結果です。また、中学生になると LINE の利用率が高くなり、中学 3 年生では 70% 近くの生徒が利用していることがわかります。LINE の方がメールよりも使用率が高く、人気の高いコミュニケーションツールとなっているようです。

便利な反面、スタンプだけの返信から誤解されてしまうこともあります。また、正しい設定をしていないと、知らない人と知らないうちにつながってしまうこともあります。ネットに投稿した写真から個人が特定され、悪意のある大人に利



用され、子どもたちが被害者となるような事件も起こっています。ネットに投稿した書き込み・写真等は、事実上消すことができません。将来、就職や結婚をするときになって、子どもの頃に起こったトラブルが自分に返ってくる場合があります。人を傷つけるような書き込みをしたり、個人情報を開示してしまうようなことがないように、十分注意しましょう。また、アプリをダウンロードするときは、利用規約をよく読み、危険性がないか、なぜ無料なのかを考えてみるようにしましょう。

(3) 小学生の65.6% (昨年比+6.4%)、中学生の90.1% (昨年比+2.8%)が、平日にインターネットを利用しています。その中で、平日3時間以上利用している小学生が6.9% (昨年比+1.8%)、中学生が13.5% (昨年比-0.2%) もいます。



LINE等の返信や動画を見たり、オンラインゲーム等に時間を使っていると、自分を見失ってしまいます。ネットを使用しない時間を設け、自分のための時間をつくりましょう。特に夜9時以降の使用は控えましょう。

(4) LINE等のやりとりや、着信の通知に「面倒くさい」と感じたり、疲れを感じたりした経験は、小学生で4.2%であるのに対して、中学生は39.9%と割合が高くなっています。特に中学生の学年が上がるにつれて高くなっています。メッセージを送る側は、相手のことや送る時間、回数も考えて送るようにしましょう。

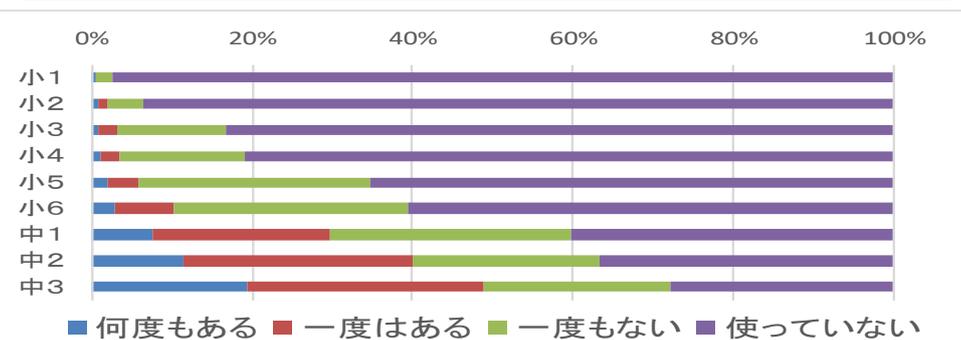
受け取る側は、断る勇気を持つことも大切です。お互いが気持ちよくコミュニケーションが取れるように心がけましょう。

小学生の17.1% (昨年比+3.8%)、中学生の27.1% (昨年比-4.2%)が、インターネットやゲームをした翌日に学校で疲れや眠気を感じています。学年が上がるにつれて、次の日に疲れや眠気を感じる割合は、高くなっています。

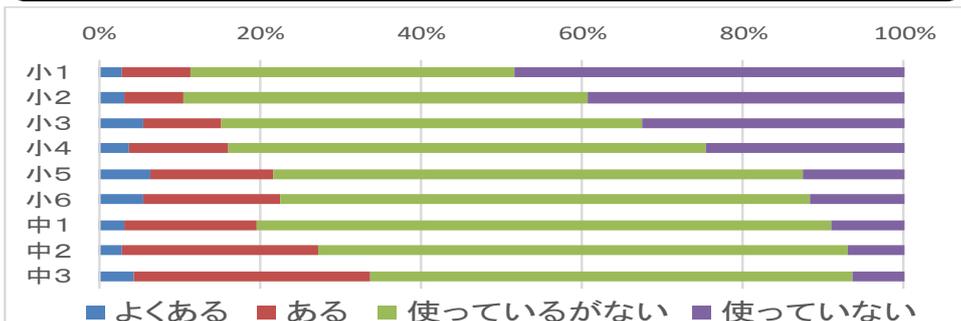
小学生の1.4% (昨年比+0.8%)、中学生の1.5% (昨年比-0.7%)がインターネット上でのトラブル (悪口・いやがらせ・けんか等) の経験があると回答しています。ネットに書き込んだ誹謗中傷は投稿者に返ってきます。誹謗中傷を書かれたからといって、反論してしまうと、知らぬうちに自分も加害者となることがあります。誹謗中傷を書かれても無視する勇気を持つことも大切です。



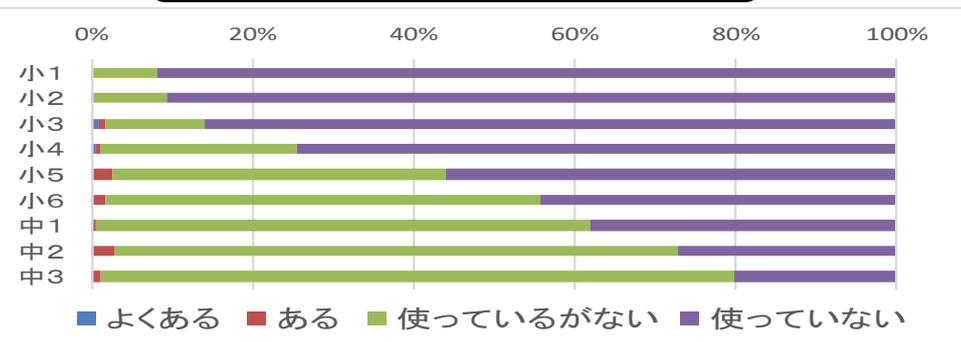
LINE等のやりとり、着信の通知に「面倒くさい」や疲れを感じたことがあるか



インターネットやゲームをした翌日に学校で眠気や疲れを感じたことがあるか

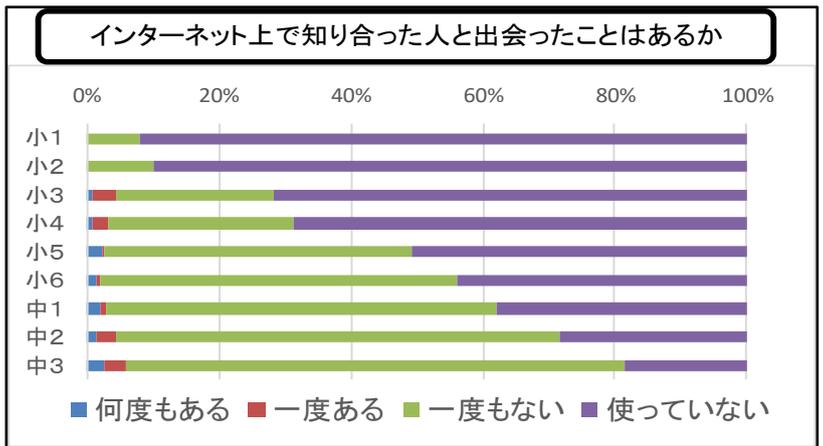


インターネット上でのトラブルはあるか



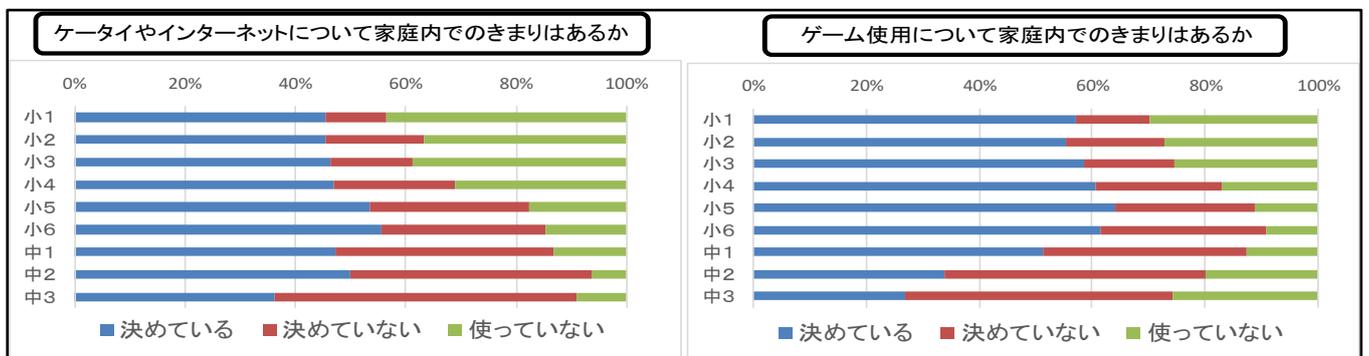
(5) 小学生の2.0%、中学生の4.5%が、インターネット上で知り合った人と出会った経験があると回答しています。小学3年生の4.5%という割合は、中学生全体の割合と同じです。また、中学1年生2.8%、2年生4.5%、3年生6.0%と学年が上がるにつれて出会った経験の割合が、高くなっています。

ゲーム機はネットに繋がるのが当たり前になり、無料のWi-Fiスポットも増えています。小中学生がゲーム・チャット・SNSを通して出会う相手は、勿論小中学生だけではありません。不審者は、子どものふりをして近づき、個人情報聞き出したり、悪事を働いたりしようとします。ネットの使い方を間違えると、被害者にも加害者にも簡単になってしまうことを覚えておきましょう。今、インターネットで知り合った人との出会いから、未成年が被害者になる事件も起こっています。優しい言葉をかけてくれるから、自分と同調してくれるからといっても、実際はどんな人物かはわかりません。被害に遭ってからでは遅いのです。自分の身を守るためにも、インターネット上で知り合ったからといって、会いに行かないようにしましょう。



(6) ケータイやインターネット利用のきまりを決めていない家庭は、小学生で21.0% (昨年比-3.7%) 中学生で46.5% (昨年比-6.3%) あります。また、ゲーム利用のきまりを決めていない家庭は、小学生で20.7% (昨年比-0.9%) 中学生で43.4% (昨年比-5.7%) ありました。いずれも昨年より少なくなっており、家庭でのきまりづくりが進んでいることが伺えます。

各校のネットトラブル防止講習会等の取組の結果、加西市の子どもたちの意識は確実に高まり、学校ルールづくりは必要ないと専門家には評価されています。

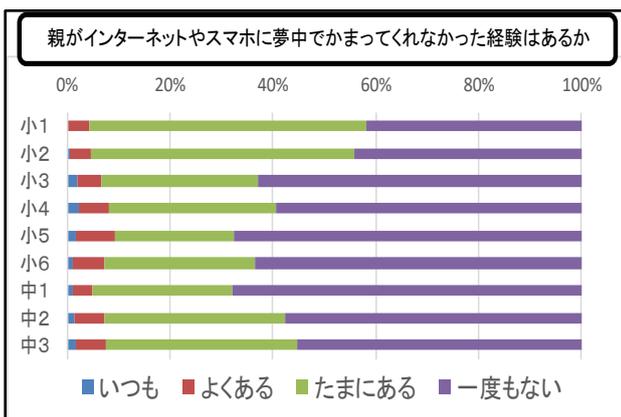


(7) 親がインターネットやスマホに夢中でかまってくれなかった経験が一度もないと回答したのは、小学生で56.6%、中学生で60.1%でした。私たち大人世代は、大きくなってからスマホをはじめとするインターネットに出会っています。子どもたち以上に私たち大人がインターネットに夢中になってはいないでしょうか。「ママのスマホになりたい」(作のぶみ: WAVE出版)という絵本も出版されています。子どもたちにインターネットの使い方を考えさせると同時に、私たち大人もいかに

インターネットとつきあっていくかを考えなければいけないのではないのでしょうか。

ネット社会の進化は避けては通れません。正しい知識を持ち、トラブルを回避していく必要があります。大人も子どもも、持っていても使わない我慢をする「不便体験」をしていく必要があるのではないのでしょうか。

今回のアンケートの結果を、各家庭でも振り返り、みんなでインターネットの正しい使い方について話し合う機会にしてほしいと願います。



2 家庭での話し合いやルールづくりについて (竹内和雄「スマホドレン対応マニュアル」(中公新書)より)

家庭でのルールづくりは、保護者が一方的に押しつけるのではなく、家族ぐるみでスマホやインターネット、ゲーム機の利用のしかたについて話し合い、家族みんなで守れるものにしていきましょう。

(1) スマホ等を持たせるリスクを大人が認識しておきましょう。

- ① 使い方次第で「犯罪」につながるリスク
- ② 世界に「つつぬけ」というリスク
- ③ 悪意ある人から狙われるリスク
- ④ 個人情報拡散するリスク
- ⑤ 「ながらスマホ」が引き起こすトラブルのリスク

(2) 子どもの「スマホ等が欲しい」は家族の話し合いのチャンスです

- ・なぜ欲しいのかを十分説明させましょう
- ・保護者としての心配を伝えましょう
- ・納得がいくまで話し合いましょう
- ・「相談する」ことの大切さを教えましょう

(3) 家庭での使い方のルールを決めましょう。 《スマホ等のルールの決め方》(例)

- ① 使用時間を決める → 「〇時になったら電源を切って、居間の充電器に置く」
- ② 使用場所を決める → 基本的に居間に限定する
- ③ 使ってはいけないタイミングを決める → 食事中、会話中、テスト前など
- ④ 課金のルールを決める → 基本的には「しない」
- ⑤ ダウンロードのルールを決める → 保護者が立ち合う・安易なダウンロードはしない
- ⑥ 使う上での「モラル」を確認しておく → 悪口は書かない・勝手に人の写真を撮らない
インターネット上で知り合った人とは会わない
- ⑦ ペナルティーを決める → ルールを守れなかったら一定期間使わせない



◇ あひルのおやコ (兵庫県警察「インターネットのお約束」に加筆)

あ **会いに行かない** ネットで知り合った人に会いに行かない
悪意ある人が待っている可能性がある。被害に遭ってからでは遅い。

ひ **秘密にする** パスワードは家の鍵と同じ、秘密にしておこう！
悪用されて被害に遭うこともある。

ル **ルールを守る** みんなで作ってみんなで守ろう！ネットのルール！
自分を守るためのルールだと考えよう。

の **載せない** 自分や友達の名前・住所・写真をネットに載せない
被害に遭う原因をつくらない。

お **思いやり** 誰が見ても笑顔になれる“思いやりのある書き込み”を
人とコミュニケーションするのと同じだ。

や **やっておこう！フィルタリング** フィルタリングはみんなを守る強い味方！必ずやっておこう
自分たちを守るための大切な方法だ。

コ **コミュニケーションを大切に** 家族や友達、身近な人と過ごす時間を大切にしよう
かけがえのない時間をネットにとられない。



困ったときは、一人で悩まず、すぐ相談！ (兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課ホームページより)

3 もし、インターネット等のやりとりで困ったことやトラブルになったら…

お子様からインターネットのこと(不適切な書き込み、トラブル、いじめ等)で相談を受けられ、対応が難しいと判断された場合は、迷わず下記へご相談ください。

- ① 兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課 TEL 078-341-7441 (代表)
- ② 県警本部少年育成課 少年相談室(ヤングトーク) TEL 0120-786-109 (平日9時~17時半)
- ③ ひょうごっ子悩み相談センター TEL 0120-783-111(9時~21時)・0795-42-6559(21時~9時)
- ④ ひょうごっ子「ネットいじめ情報」相談窓口 TEL 06-4868-3395(月~土14時~19時)
- ⑤ 加西市立総合教育センター相談窓口 TEL 0790-42-3730

活動事例

(団体名：相生市教育委員会)

1 タイトル

ケータイスマホ教室

2 活動の趣旨・目的

携帯電話やスマートフォン等の急速な普及に伴うインターネットの不適切な利用によるトラブルや過度の利用による健康被害などの問題は、相生市の児童生徒がいつ巻き込まれてもおかしくない状況がある。そこで今後、児童生徒が携帯電話やスマートフォン、インターネット等の利用において起こりえる身近なトラブルについて気づき、自分も相手も大切にしながら、それらを安全安心に使うためのスキルとルールやマナーの大切さを学ぶ。

3 活動内容

(1) ケータイスマホ出前授業

① 事業内容

兵庫県立大学竹内研究室と、(株)KDDI社と共同開発したトラブルの再現映像資料を活用し、自分たちに起こりえるトラブルについて知り、自分自身を守り相手を傷つけない利用の仕方について学習する。

【再現映像の内容】

- ・SNSの出会いによるトラブル
- ・軽はずみな投稿などによる個人情報の流出
- ・ゲーム等を利用する際の多額な課金
- ・ネットでの仲間はずしや悪口の書き込みの問題 等

② 期間・場所

平成30年5月～7月・市内小中学校

③ 対象

小学校5・6年生 中学校3年生



【小学校の授業の様子】



【中学校の授業の様子】

(2) ケータイスマホサミット

① 事業内容

兵庫県立大学竹内研究室(ソーシャルメディア研究会)がコーディネーター役

となり、平成29年度に先輩たちが作った市内統ルール「相生市ケータイスマホルール3か条」を広く周知するための紹介用動画を作成する。

【サミットの流れ】

- ア ケータイスマホ利用実態調査アンケートの分析結果から考える
- イ ルールを活用し自分たちの安全安心を守る方法を考える
- ウ ルールの紹介用動画を作成する

相生市ケータイスマホルール3か条

人間関係について
『伝えたいことがあったら 考えて送信しよう』

時間について
『家でルールを決め 3時間以内にしよう』

危険防止について
『フィルタリングをかけ 個人情報を書かないようにしよう』

- ② 日付・場所
平成30年8月27日（月）
相生市立那波中学校
- ③ 対象
市内小中学校の代表児童生徒
（小学校各校2名、中学校各校3名）



(3) ケータイスマホ利用実態調査アンケートの実施

【動画作成の準備】

① 事業内容

児童生徒の携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用等について実態を確認することで、事業の参考にするとともに、各校での指導の資料にする。

② 実施期間

平成30年4～5月

③ 対象

小学校4～6年生 中学校1～3年生



4 アピールポイント

児童生徒がツールの先にいる相手のことを考え、自分も相手も安全安心に携帯電話・スマートフォンを利用しようとする意識や、教師のインターネットに関するトラブルに対しての意識が事業を通して高まりつつある。今後、学校での取組をさらに進め、保護者等の理解や協力を得ることで、児童生徒が情報化社会の中で豊かに生活していく素地を培っていきたい。

活 動 事 例

(団体名： 多可町教育委員会)

1 タイトル

『Stop いじめ！ ～ SNSの正しい使用を通じて ～』

2 活動の趣旨・目的

本町では、平成26年度より子どもたちの声をもとに、学校（児童会・生徒会）、PTA、教育委員会が連携して「夜9時以降SNSやしません運動」を推進してきた。

平成28年度は、その運動をベースに、兵庫県立大学 竹内和雄准教授の指導を受け、下記の3点に重点を置いて「インターネット利用に関する基準づくり事業」に取り組み、子どもたち自ら『目安の時間；小学生夜9時、中学生夜10時』を決めた。

さらに、平成29年度には、子どもたち自らが正しいネット利用のあり方について、更なる意識の高揚を目指すとともに、地元ケーブルテレビを活用し、自作のコマーシャルを放映するなど、地域への啓発活動を進め、実効性のある活動となった。

○個々の意識を高め、正しいネット利用と心身ともに健全な生活習慣の定着を図る。

○リーダーを育てることによって、集団としての高まりの中で、さらなる運動の充実に努める。

○正しいネット利用について、啓発のあり方を考え、地域、学校、保護者が一体となり、町をあげて運動を推進する。

今年度は、各学校を主体として、引き続き、正しいネット利用のあり方についての実効的な取組を推進するとともに、昨年度の取組の中で、子どもたちから問題提起があった「いじめ」について考える取組を全町的に実施する。

3 本年度の活動内容

○7月 スマホ、インターネット等の利用状況に関するアンケート調査
(全小・中学生対象)

○8月8日(水)

「中学生ワークショップ」の開催

テーマ「いじめのない学校づくり・地域づくりに向けて」

・・・ SNSの正しい使用を通じて ...

○9月26日(水)・27日(木)・28日(金)

「スマホ・ケータイ安全教室」の実施(各小中学校を巡回実施)

対 象：町内の全中学生、小学生(4, 5, 6年生)

指導者：兵庫県立大学ソーシャルメディア研究会の学生

○10月21日(日)

「小学生・中学生ワークショップ」の開催

テーマ「いじめのない学校づくり・地域づくりに向けて」

・・・ SNSの正しい使用を通じて ...

○12月7日(金) 人権週間「多可町民の集い」

「小学生・中学生ワークショップ」への出席者の代表児童・生徒が、ワークショップでの成果や、その後の各学校での取組について発表する。

4 アピールポイント

- ・3年間継続してのアンケート実施によって、スマホの所持率や低年齢化が急激に進んでいる実態や、SNS利用に関する課題が明らかになった。
- ・いじめの問題を考えると、SNSの使い方がその要因の一つになっているという子どもたちの声から本年度の取組を始めたが、いじめのない学校づくりに向けて、子どもならではの深い意見も多く出され、意義ある活動になった。
- ・子どもたちの主体的な活動が、地域を巻き込んだ活動になっていく大きな可能性を実感できた。



事例集に関するお問合せ

公益財団法人兵庫県青少年本部企画部県民運動担当
(兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課内)
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL 078-362-3142 FAX 078-362-3957
E-mail seishonen@pref.hyogo.lg.jp